

MESA BOOGIE

M6 CARBINE™

取扱説明書

Hello from the Tone Farm

MESA/Boogieのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプ・メーカーとしての我々に、絶大なる信頼を頂いているという事ですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたという事は、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはメサ・ファミリーの一員になったのです。メサ・ファミリーへようこそ!

我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、メサの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受出来るのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導き出す事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。...私達の新たなる友へ捧げます。

M6 CARBINE™

目次

使用上のご注意	
概要	1-2

フロントパネル

INPUT (インプット)	3
ACTIVE (アクティブ) / PASSIVE (パッシブ)	3
コントロール:	
GAIN (ゲイン)	3
BASS (バス)	4
PULL DEEP (プル・ディープ)	4
MID (中域)	4-5
VOICE (ボイス)	5
TREBLE (トレブル)	5-6
DI LEVEL (レベル)	6
PULL-PRE (プル・プリ)	6
MASTER (マスター)	6
MUTE (ミュート) LED	7
POWER (電源) スイッチ	7

バックパネル

FUSE (フューズ)	8
電源コード	8
ファンクション・スイッチ	8-9
スピーカー出力端子	9
TUNER OUT (チューナー・アウト)	9
EFFECTS LOOP (エフェクト・ループ)	9-10
GROUND LIFT (グラウンド・リフト)、DIRECT OUT (ダイレクト・アウト)	10
サンプル・セッティング	11
ユーザ・セッティング・テンプレート	12
プリ・アンプの真空管の問題を診断する	13
パーツ・シート	14

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意: 安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意: 必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

。動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogie(メサ/ブギー)アンプはプロ用の機材なので、規定に従って扱って下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!

M6 CARBINE™

取扱説明書

概要:

この度は、M6 CARBINE(カービン)をお買い求めいただきありがとうございます。そしてメサ/ブギー・ファミリーへようこそ!

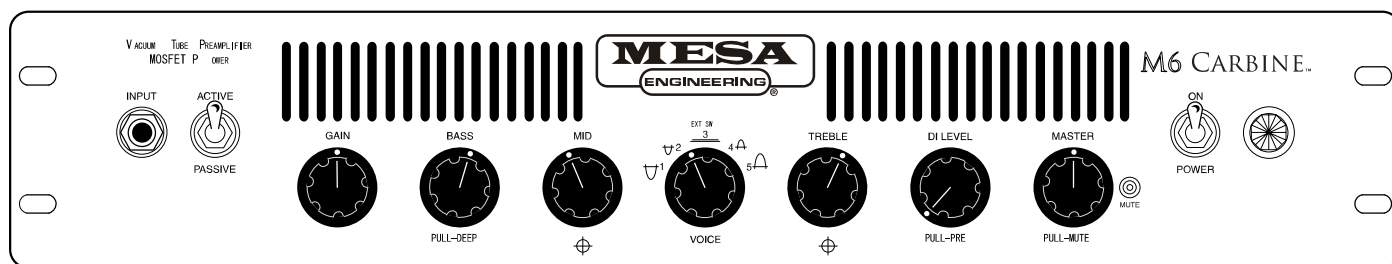
まず始めに、この度はアンプ・メーカーにメサ/ブギーをお選びいただきありがとうございます。私達は、あなたの音楽作りの手助けが出来る事を心から喜んでます。我々が目指しているのは、少しでもあなたの作品が良いものになる様に、いつでも力になれる準備をしておく事なのです!私達は、この新しいアンプが、これから永きに渡り、あなたの信頼を獲得し、あなたの音楽を自由に表現する為の、良きパートナーとなれる事を確信しています。

M6 CARBINE(カービン)は、ベース・アンプのメサ・ファミリーの輪を大きく広げ、信じられないほど輪郭のすっきりした、エキサイティングなサウンドを提供します! 出力セクションには、M-PulseやBig Block 750やTitanと同時期に開発された、カスタム設計のモス・FETを採用しています。しかし、プリ・アンプとドライバー・セクションは、全く異なる回路を、新たに設計しています。

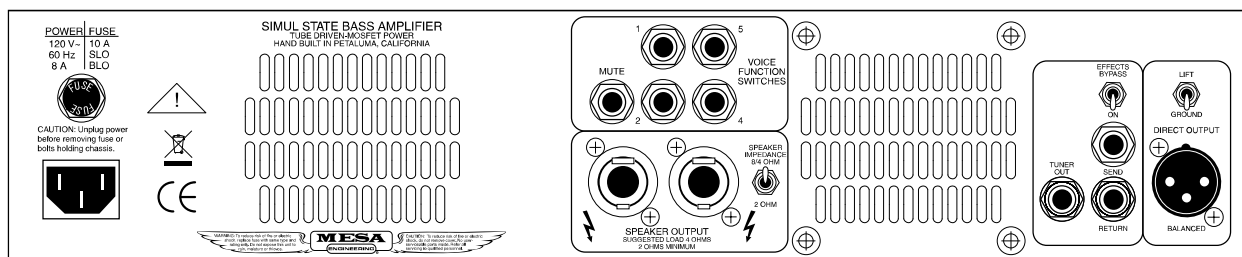
PASSIVE(パッシブ)/ACTIVE(アクティブ)スイッチは、プリ・アンプの入力感度を決定し、必要なヘッドルームを供給します。真空管プリ・アンプの最初の部分では、一般的なトーン・コントロールである、バス、ミッド、トレブルで、基本的なサウンドを形作りますが、パワーを形成するのはここからです。バス・コントロールには、PULL DEEP(プル・ディープ)という機能があり、つまみが押されていると低音域がタイトで明瞭になり、つまみを引っ張ると超低音域が強調され、高音域に空気感が加えられます。

また、M6 CARBINE(カービン)には、VOICE(ボイス)コントロールという新しい機能が搭載されており、音全体のキャラクターを簡単に変える事が出来ます。この機能は、4つの記号で示された異なる周波数特性と、周波数特性がフラットなバイパスの5つの中から、ロータリーつまみで選択します。4つの記号は、それぞれの周波数特性を、EQカーブで象徴的に表しています。左の2つは、中心周波数が異なる、中音域が減衰した周波数特性になっており、伝統的な丸くて暖かみのある、R & B サウンドに向いています。12時の位置は、フラットな周波数特性になっており、右の2つは左とは反対に、中心周波数が異なる、中音域が増幅された周波数特性になっており、力強く中音域の輪郭がしっかりしたサウンドは、指弾きスタイルのプレーを中心とした、タイトなドライブのロックに向いています。

フロントパネル: M6 CARBINE



バックパネル: M6 CARBINE



概要(続き):

DI LEVEL (レベル)とMASTER (マスター) コントロールは、ステージ上で演奏のボリューム・レベルを、素早く簡単に調整する機能です。DI LEVEL (レベル) 機能は、トーン・コントロールの前段と後段の、どちらを出力するのか選択する事が出来ます。つまみを押すと後段になり、つまみを引っ張ると、PULL PRE (プル・プリ) が有効になって、全てのプリ・アンプをバイパスした信号が出力されます。MASTER (マスター) コントロールには、PULL MUTE (プル・ミュート) 機能が装備されています。これは、ライブやスタジオで演奏する時に、スピーカーから音を出さずにチューニングをする為の機能です。また、リア・パネルのMUTE (ミュート) と表示されたファンクション・スイッチ・ジャックに、フット・スイッチを接続する事で、リモート・コントロールする事が出来ます。

リア・パネルには、プロ・ミュージシャンにとって重要な機能が、シンプルにレイアウトされています。吸気口と排気口の間には、FUNCTION SWITCH (ファンクション・スイッチ) ジャックと、SPEAKER OUTPUTS (スピーカー・アウトプット) 端子が配置されています。TSフォーンのFUNCTION SWITCH (ファンクション・スイッチ) ジャックは、フロント・パネルのVOICE (ボイス) 機能とTUNER MUTE (チューナー・ミュート) 機能をコントロールします。チップ・トゥー・グランド・ロジックのスイッチをここに接続して、VOICE (ボイス) 機能とTUNER MUTE (チューナー・ミュート) 機能をコントロールします。マスター・エクスターナル・スイッチャーを接続して、スイッチングをプログラムする事も出来ます。SPEAKER OUTPUTS (スピーカー・アウトプット) には、スピコン・ユニバーサルの端子を採用していますので、通常のTSフォーン、あるいはNuetrik (ノイトリック) のスピコン端子、どちらでも使用する事が可能です。SPEAKER IMPEDANCE (スピーカー・インピーダンス) スイッチは、接続するスピーカー・エンクロージャーのインピーダンスに合わせて、切り替えて下さい。8オームか4オームの時は上に、2オームの場合は下にします。2オームにすると、フル・パワーで駆動する事になります。

そのさらに右には、エフェクト・ループとDIRECT OUTPUT (ダイレクト・アウトプット) セクションがあります。DIRECT OUTPUT (ダイレクト・アウトプット) は、XLRのオス端子と、グランド・リフトとグランドの切り替えスイッチで構成されています。グランド・リフトは、回路とシャーシ・グランド接続のオン/オフを行います。このスイッチは通常GROUND (グランド) にして、回路とシャーシを接続した状態にしますが、ライブでPAミキサーに接続する場合や、レコーディングでコンソールに接続する場合等、シャーシの他にグランドをとってしまうとハムノイズの原因になる事があります。そのような場合は、LIFT (リフト) 側にして下さい。

エフェクト・ループはシリーズ接続になっており、SEND (センド) ジャックの上にあるEFFECTS BYPASS (エフェクト・バイパス) スイッチでバイパスする事が出来ます。TUNER OUT (チューナー・アウト) ジャックにチューナーを接続して、フロント・パネルのMASTER (マスター) コントロールのPULL MUTE (プル・ミュート) 機能を使用すると、スピーカーから音を出さずにチューニングをする事が出来ます。リア・パネルのMUTE (ミュート) と表示されたファンクション・スイッチ・ジャックに、フット・スイッチを接続すると、MUTE (ミュート) をリモートで行う事が出来ます。

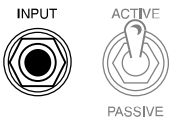
これで、M6 CARBINE (カービン) の機能と操作の概要はご理解いただけただ事でしょう。これからのよいよ実際に音を出して、機能を確認していきます。ここで再びメサのアンプを選んで下さった事に感謝申し上げます。

フロント・パネルの操作:

INPUT (インプット):

このジャックにベースの出力を接続します。ここに接続された信号は、M6 CARBINE (カービン) の全真空管プリ・アンプの、前段の真空管に入力されます。この入力、パッシブ、アクティブ、どちらのタイプのピックアップでも対応出来るヘッドルームを持っています。アクティブのピックアップを使用する場合は、GAIN (ゲイン) コントロールを 10時から2時の間にすると、適正なヘッドルームになります。この設定を高めにする、ソフト・クリップが聞こえるようになりますが、気にする必要はありません。ハイパー・クリーン・サウンドをクリーン過ぎると感じたら、プリ・アンプをもっとドライブさせて明瞭度を落とすのも良いでしょう。

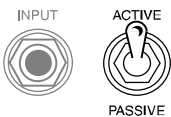
VACUUM TUBE PREAMPLIFIER
MOSFET POWER



ノート: GAIN (ゲイン) コントロールを高く設定して、プリ・アンプをドライブさせたら、BASS (バス) コントロールと、ACTIVE MID (アクティブ・ミッド) コントロールの低い周波数は下げた方が賢明です。こうする事により、スピーカーに対するダメージを避ける事が出来ますし、低音域のサウンドがタイトさを失ったり、レスポンスが鈍くなる事を回避出来ます。

ACTIVE (アクティブ) / PASSIVE (パッシブ):

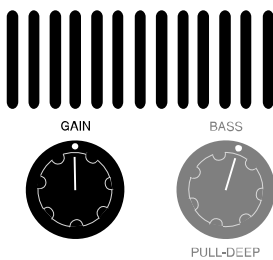
VACUUM TUBE PREAMPLIFIER
MOSFET POWER



この小さなトグル・スイッチは、入力のヘッドルームと、入力インピーダンスをコントロールします。お察しの様に、このスイッチは、PASSIVE (パッシブ) の入力インピーダンス回路と、“パッドの入った”大きなヘッドルームのACTIVE (アクティブ) 回路を切り替えます。プリ・アンプを搭載していない、通常のパッシブ・タイプのベース・ギターを使用する場合は、PASSIVE (パッシブ) にして、新しいタイプの、アクティブ・ピックアップやプリ・アンプを搭載したベース・ギターを使用する場合は、ACTIVE (アクティブ) に設定して下さい。

GAIN (ゲイン):

このコントロールは、入力感度を調整し、サウンド・キャラクターをある程度決定します。このコントロールを低め (12時より下) にすると、ヘッドルームに余裕のある明るいサウンドになります。この領域にすると、高次倍音が豊富な、高音域が透明感のあるサウンドになります。このサウンドは、チョッパーを多用するファンキーなベーシストに、特に好まれます。低音域と中音域に於ける、ゴムバンドを弾いたような若々しいサウンドは、1弦 (G) を弾いても、耳障りで詰まったような感じにはなりません。



GAIN (ゲイン) コントロールが 12時を過ぎると、豊かで“ほど良く丸い”サウンドになり、徐々にヘッドルームが狭まってきます。12AX7真空管が歪み始め、真空管オーバードライブ・サウンドになっていきます。

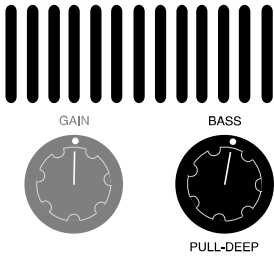
12時から2時半の領域では、クラシックで暖かみのある真空管サウンドになり、この狭い領域内には、様々なサウンドが詰まっています。つまみを少し捻るだけで、アタックのキャラクターに、微妙ではありますが、重要な変化が現れます。

ゲインを変える事によるサウンドの変化が、実際に音楽のノリに影響を与えるのです。また、サウンドに深みを加える事にも繋がります。アタックやサスティーンの違いが、ベーシストやバンド全体のサウンドに、大きな影響を与えるという事を理解するには時間がかかります。

フロント・パネルの操作(続き):

BASS(バス):

これは、真空管プリ・アンプの中で低音域の量を調整する、とても解り易いコントロールです。**BASS**(バス)コントロールは、ピーク・ディップ・タイプではなく、シェルビング・タイプのコントローラーです。これはQポイントの周波数よりも低い帯域の音を、増幅させたり減衰させる動作をします。このコントロールは、狭い帯域幅を個別にゲイン・コントロールする、パラメトリックEQと異なり、帯域幅が広がっていますので、EQの特性が緩やかになっています。



BASS(バス)コントロールで、実際にゲインをコントロールする時のロール・オフ周波数は、55Hzになっており、その上下の倍音成分も一緒にコントロールします。このコントローラーが12時を過ぎると、321Hzをピークにして、1オクターブにつき6dbずつゲインが上がります。12時にすると“平”(増幅も減衰もしません)になります。**BASS**(バス)コントロールを12時よりも下げると、55Hzまでの音域と、その倍音成分が減衰したサウンドになり、55Hzから20Hzの音域が、1オクターブにつき6dbずつゲインが下がります。コントローラーを7時半にすると-20db(オフ)になります。

この帯域幅の広いアクティブ・ロータリー・コントロールは、従来のパッシブ・タイプのコントローラーよりも、遥かにバスのキャラクターを際立たせる事が出来ます。また、低音域を信じられない程増幅したり、反対にひと捻りで、トランジスター・ラジオのようなサウンドにする事も可能です。言うまでもない事ですが、この強力なコントローラーは、音楽的にも最適な調整能力を持っています。VOICE(ボイス)コントロールと、**BASS**(バス)コントロールを組み合わせる事で、特別な相乗効果が生まれます。

PULL DEEP(プル・ディープ):

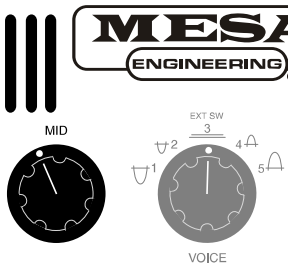
M6 CARBINE(カービン)には、**BASS**(バス)コントロールで、2つの異なる低音域をコントロールする機能が搭載されています。

つまみが押されている(通常)と、バスのカット・オフ周波数が高い設定になり、超低音域の成分をコントロールする事が出来なくなります。結果的にタイトでレスポンスの速い、輪郭のはっきりした、ライブ・パフォーマンス向きのサウンドになります。またレコーディングに於いては、ドラムのキックと同期した、パンチの効いたベース・サウンドに最適です。

PULL DEEP(つまみを引っ張る)にすると、超低音域までカバーした、暖かみのある豊かな低音のサウンドになりますので、少人数編成のバンドに向いています。超低音域と同時に高音域も少し強調されるので、サウンドに空気感が加わります。この設定をロック、ブルース、R&B等のトリオ・バンドで試してみる事をお勧めします。

MID(ミッド):

このコントローラーは、全てのトーン・コントロールの中で、唯一パッシブ・タイプのコントローラーです。中音域のコントロールをパッシブ・タイプで行う事は、音楽的にも適切な選択と言えます。このコントローラーは、広い帯域を滑らかなカーブ特性でカバーしています。**BASS**(バス)コントロールとは異なり、増幅のみのコントロールとなりますが、中音域の成分を十分取り除く事も出来ます。しかし、アクティブ・タイプのコントローラーの様に極端に減衰させる事は出来ません。



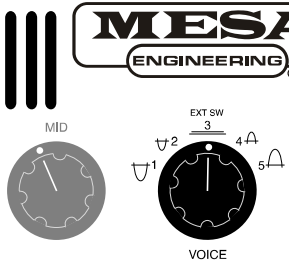
お分かりの様に、このコントロールは、中域の周波数を形作るのに、驚くほどうまく機能しています。サウンド・キャラクターは素朴で、他のトーン・コントロールと絶妙なコントラストを生み出しています。このコントローラーで、悪いサウンドを生み出す方が難しいのではないかと考えてしまうほどです。

中音域を、減衰させたり増幅させたりする事で、現代的なR&Bやファンク・スタイルに対応する事が出来ます。VOICE(ボイス)コントロールには、様々なコントロールをする能力があります。こうしたことから、我々は、間違いなくパッシブ・タイプのミッド・コントロールを選びます。それはこの10年間、パッシブ・タイプで素晴らしいアンプを作り続けてきたからです。これは紛れも無い事実なのです。

フロント・パネルの操作 (続き):

VOICE (ボイス):

この機能は、使い方がとてもシンプルで、しかもとても強力な効果のある、パラメトリックEQです。EQカーブの細かい事は気にせず、それぞれのサウンドの特徴を掴んでしまえば良いのです。5ポイントのロータリーつまみで、サウンドを聴きながら選択するだけです。サウンドが大きく変化するのは、主に中音域なので、サウンドのキャラクターが劇的に変化するので。5つのポイントの内、左側の2つは中音域を減衰させ、右側の2つは中音域を増幅させます。それぞれの周波数特性は、5ポイントのロータリーつまみの周囲にグラフィック表示されており、一目見るだけで解る様に工夫されています。残りの1つ(3番目のポジション)は変化させず、VOICE (ボイス) 機能をバイパスします。機能的な事を詳しく知らなくても、グラフィックを見ただけで直感的に操作する事が出来ます。



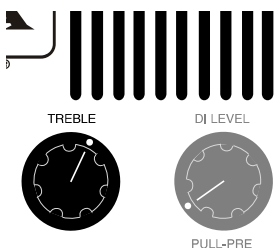
VOICE (ボイス) コントロールの5 ポジションそれぞれの特徴;

- 1 540Hzを中心周波数とする中音域を、かなり極端に減衰させています。サミングやスラッピング奏法、そしてスムーズなコードの演奏に向いています。
- 2 540Hzを中心周波数とする中音域を、緩やかに減衰させています。R & Bや、ゆったりしたサウンドに向いています。
- 3 VOICE (ボイス) 機能がバイパスされます。(周波数特性はフラット)
- 4 370Hzを中心周波数とする中音域を、増幅させています。指弾きの演奏スタイルに合っています。プレーに対する追従性が良く、輪郭のしっかりしたサウンドになります。
- 5 170Hzを中心周波数とする低中音域を、増幅させています。低中音域が強調された、伝統的なブルースや、レゲエの指弾きスタイルに向いています。

VOICE (ボイス) コントロールの帯域幅は、狭過ぎる事も広過ぎる事も無いので、自然なサウンドになります。減衰や増幅は、高音域や低音域にも多少影響します。VOICE (ボイス) コントロールを使用すると、通常のトーン・コントロールに加えて、さらに、サウンドに変化を加える事が出来ます。

TREBLE (トレブル):

TREBLE (トレブル) は、BASS (バス) 同様、アクティブ・シェルビング・タイプのコントローラーを使用しています。このコントローラーは、元々高次倍音を処理する能力に優れています。BASS (バス) コントロールの様に、倍音成分も含んだ、Qポイントの周波数よりも高い帯域の音を増幅させたり減衰させる動作をします。



このコントローラーが12時を過ぎると、723Hzを出発点にして、1オクターブにつき6dbずつ、+20dbに達するまでゲインが上がります。723Hzよりも上の周波数は、+20dbに達すると20KHzまでそのゲインを保持します。これは、従来のパッシブ・コントロールの良さを生かしつつ、さらにサウンドに甘さを加える働きをしています。このコントロールを12時よりも下げると、3.2KHzからシェルビング・ポイントの723Hzにかけて、1オクターブにつき6dbずつゲインが下がります。723Hzよりも上の周波数は、-20dbに達すると、コントローラーを7時半にするまでそのゲインを保持します。この周波数帯域を減衰させる能力は、信じられないほど豊かで暖かみのある、懐かしのR&B やジャズ・サウンドを再現する事を可能にしています。

フロント・パネルの操作(続き):

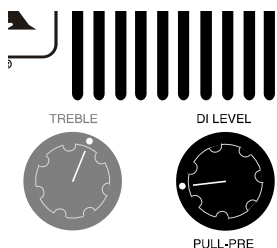
TREBLE:(トレブルの続き)

このアクティブ・シェルビング・タイプの**TREBLE**(トレブル)コントロールは、一連の回転式トーン・コントロールをまとめ上げる、強力な能力を持っています。*M6 CARBINE*(カービン)を初めて使用した多くのプレイヤーが、このトーン・コントロールとゲインが生み出すサウンドは、今まで経験した中でベストだとコメントしています!

ノート: **BASS**(バス)コントロールの時と同様に、このタイプのコントローラーは強力なので、微妙な調整が必要になります。**TREBLE**の場合はなおさらです。なぜなら、高音域は音が大きく感じられるからです。極端な設定にすると、耳を痛める可能性もあります。もう一つの注意点は、この設定を高くすると、一緒に**ノイズ・フロア**も大きくなってしまうという事です。

DI LEVEL (レベル):

これは、リア・パネルにある3ピンXLR端子の**DIRECT OUTPUT**(ダイレクト・アウト)の出力レベルをコントロールします。このコントローラーは、ほとんどのPAミキサーやレコーディング・コンソールの入力レベルに対応出来ます。



PULL-PRE (プル・プリ):

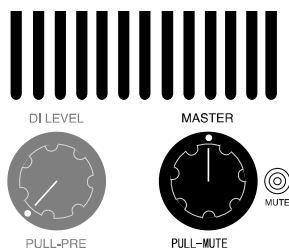
これは、つまみを押ししたり、引っ張ったりする事で、**DIRECT OUTPUT**(ダイレクト・アウト)に出力する信号を切り替える機能です。つまみを押しすと**POST**(ポスト)になり、全てのトーン・コントロールで調整された、プリ・アンプのサウンドが出力されます。つまみを引っ張ると**PRE**(プリ)になり、プリ・アンプをバイパスして、ベース・ギターの音が直接出力されます。**PRE(プリ)にすると**、**GAIN**(ゲイン)、**MASTER**(マスター)、そして全てのトーン・コントロールの影響を受けていない信号が、**DIRECT OUTPUT**(ダイレクト・アウト)に出力されます。ベース・ギターの出力信号が、ミキシング・コンソールの入力インピーダンスに合う様に調整されて、直接出力されます。**POST(ポスト)にすると**、**GAIN**(ゲイン)、**MASTER**(マスター)、そして全てのトーン・コントロールの影響を受けた信号が、**DIRECT OUTPUT**(ダイレクト・アウト)に出力されます。これは、*M6 CARBINE*(カービン)をスピーカー・エンクロージャーに接続した状態での設定ですので、ミキシング・コンソールへの信号は、**GAIN**(ゲイン)と、トーン・コントロールと、**VOICE**(ボイス)機能で、少し調整する必要があります。

PRE(プリ)は、多くの低音域成分を必要とする、大規模なステージでのライブの時に便利です。そのような場合は、たいてい、ベースの出力を、ハウス・エンジニアがコントロールする、PAミキサーに接続するので、アンプの出力は、シンプルの方が調整し易いのです。**POST**(ポスト)は、**ダイレクト・アウト**を直接ミキシング・コンソールに接続してレコーディングするのに最適です。この場合は、アンプのトーン・コントロールをフルに活用して、完全に作り込んだ音を出力すると良いでしょう。

ノート: *M6 CARBINE*(カービン)をコンソールに接続する時は、必ず**DI LEVEL**を絞りにった状態で行って下さい。**DI OUTPUT**をコンソールに接続し終わってから、**DI LEVEL**を徐々に上げていく様にして下さい。この手順を守る事で、機器や耳の損傷を避ける事が出来ます。

MASTER(マスター):

MASTER(マスター)コントロールは、サイマル・ステート・パワー・セクションへのレベルを調整し、*M6 CARBINE*(カービン)の最終的な出力レベルを決定します。**GAIN**(ゲイン)コントロールや、トーン・コントロールで作られたサウンドを、プリ・アンプの最終段の**MASTER**(マスター)コントロールで仕上げます。

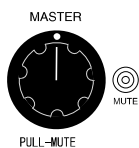


ノート: **MASTER**(マスター)コントロールは、車のアクセル・ペダルに相当する強力なコントローラーですので、操作には注意が必要です。スピーカーや耳に損傷を与えない為に、最初は絞りにった状態から始めて下さい。

フロント・パネルの操作(続き):

MUTE(ミュート)LED:

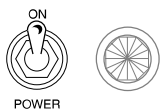
このLEDは、フロント・パネルのMASTER PULL MUTE(マスター・プル・ミュート)か、リア・パネルのファンクション・スイッチ・ジャックで、チューナー・ミュート機能が有効になった時に点灯します。このLEDが点灯している間は、SPEAKER OUTPUT(スピーカー出力端子)から信号は出力されません。



POWER(電源)スイッチ:

このスイッチで、M6 CARBINE(カービン)に電源を供給します。本体がグラウンドに繋がっている(電源コードの3つの端子が全て接続されている事で、アンプを安全に使用する事が出来ます)事を確認して下さい。また、適正な電圧が、コンセントに供給されている事を確認して下さい。

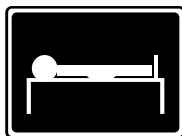
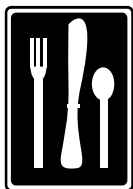
M6 CARBINE.



ノート: 電源コードは、必ず同梱のものを使用し、他のものを使用しないで下さい。他のものを使用すると、機器に損傷を与えたり、火事を起こす危険があります。

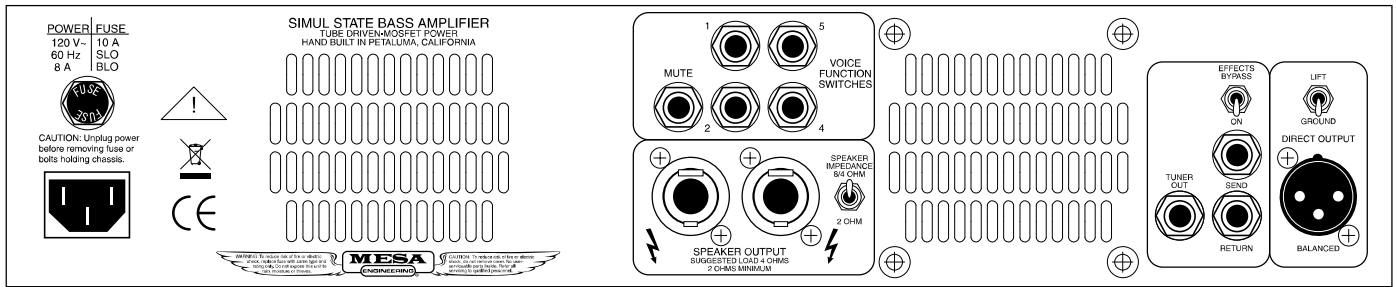
ここまでM6 CARBINE(カービン)のフロント・パネルを見てきました。ここからは、リア・パネルの機能を見てみましょう。

休息場



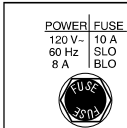
バックパネル:

バックパネル M6 CARBINE



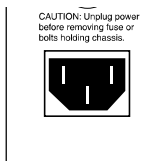
FUSE (ヒューズ):

これは、M6 CARBINE (カービン) のA.C.メイン・ヒューズです。交換する場合は、必ずSLO-BLOタイプのヒューズを使用して下さい。M6 CARBINE (カービン) はとても高出力ですので、これはとても重要です。



電源コード:

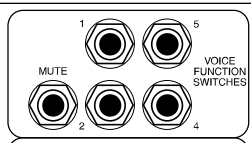
M6 CARBINE (カービン) では、“ヨーロッパ”スタイルの、取り外し可能な電源コードを採用しています。このおかげで、ギグのセッティングや、撤収が楽になっています。また、電源コードをラック内で束ねておけるので、ラックにマウントしたり、外したりする時にも便利です。電源コードが損傷してしまったら、弊社にご連絡いただければ、電源コードに運賃を加えた料金にて販売する事が出来ます。本体の電源をオンにする前に、電源コードが確実にこのソケットに入っている事を、確認して下さい。



ノート:電源コードは、絶対に他のものを使用しないで下さい

ファンクション・スイッチ:

これら5つのTSフォーン・ジャックに、マスター・エクスターナル・スイッチャーを接続して、フロント・パネルのVOICE (ボイス) 機能とチューナー・ミュート機能を、コントロールする事が出来ます。マスター・エクスターナル・スイッチャーがMIDIに対応していれば、事前にプログラムを組んでおく事で、サウンドや、本体の機能を、リモート・コントロールする事が出来ます。



M6 CARBINE (カービン) のファンクション・ジャックは、通常市場で販売されている、シンプルなグラウンド (チップ・トゥー・グラウンド) の、ラッチング (モーメンタリーではなく) タイプのスイッチを使用して下さい。

ファンクション・スイッチを使って、VOICE (ボイス) モードにトリガーをかける場合: フロント・パネルのVOICE (ボイス) ロータリーつまみを3番にして下さい。TSフォーンのケーブルで、VOICE (ボイス) ジャックとスイッチを接続します。スイッチが押されると、それに対応するVOICE (ボイス) モードがオンになり、出力されるサウンドが変化します。市販されているほとんどのエクスターナル・スイッチャーは、接続して、プログラム・ナンバーを選択し、モードを選択して、エンター・キーを押すだけで、それをストア出来る様になっています。フットスイッチで選択するのが、1つのボイスに決まっている場合は、楽器店で販売されている、1つのボタンのスイッチでも構いません。

バックパネル(続き):

ファンクション・スイッチ:(続き)

M6 CARBINE(カービン)のライブ・パフォーマンスは、ファンクション・スイッチ・ジャックにより、格段に拡張されます。サウンドを変化させる為に、演奏を中断して、アンプの所まで行って、つまみを調整する必要がないのです。

ノート:フロント・パネルのVOICE(ボイス)選択スイッチが、3/EXT SWITCH以外に設定されていて、ファンクション・スイッチ・ジャックに接続されているスイッチで、フロント・パネルの選択と異なるモードを選択すると、その2つのVOICE(ボイス)モードを、同時に使用する事が出来ます。これは、アンプに損傷を与える事はありませんし、組み合わせによっては、思いがけず良いサウンドを生み出す場合があります。例えば、フロント・パネルで中音域の減衰した2を選択して、フットスイッチで中音域が増幅された4か5を選択すると、ユニークなサウンドが生み出されます。フロント・パネルとフットスイッチで同じVOICE(ボイス)モードを選択すると、サウンドは変化しません。

チューナー・ミュート機能の操作方法: TSフォーン端子のケーブルをMUTE(ミュート)ジャックに接続し、反対側のプラグをマスター・エクスターナル・スイッチャーか、市販のラッチ・タイプ(モーメンタリーではなく)のフット・スイッチに接続します。

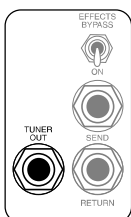
ノート:フロント・パネルのPULL MUTE(プル・ミュート)機能は、フット・スイッチよりも優先します。フロント・パネルのMASTER(マスター)コントロールを引っ張ってMUTE(ミュート)機能をオンにしたら、リア・パネルのフット・スイッチでこの機能をオフにする事は出来ません。

スピーカー出力端子:

これは、M6 CARBINE(カービン)のスピーカー出力端子です。このジャックには、Neutrik(ノイトリック)のロッキング・スピコン・タイプの端子と、通常のTSフォーン端子のどちらでも接続する事が出来ます。この端子に8Ω負荷のスピーカーを接続したら、M6 CARBINEのインピーダンス・スイッチを、8/4にしてください。これにより、M6 CARBINEは、250ワットのクリーン・パワーを生み出します。また、4Ω負荷のスピーカーを接続して、インピーダンス・スイッチを8/4にすると、M6 CARBINEは、500ワットのクリーン・パワーを生み出します。さらに、2オーム負荷のスピーカーを接続して、インピーダンス・スイッチを2Ω(スイッチを下)にすると、M6 CARBINEは、500ワットのクリーン・パワーを生み出します。2Ω負荷のスピーカーを接続する場合は、必ずインピーダンス・スイッチを2Ω(スイッチを下)にする事を忘れないでください。これはアンプの信頼性を保つ為に必要な事です。

ノート: SPEAKER IMPEDANCE(スピーカー・インピーダンス)スイッチは、常に接続しているスピーカーに合わせておいて下さい。2Ω負荷のスピーカーを接続して、SPEAKER IMPEDANCEスイッチが8/4Ωに設定されている状態で、大きなボリュームでプレーを続けると、ショート保護回路が動作して、スピーカー出力がミュートされてしまう事があります。これは、パフォーマンスを中断する事になりますし、モスFETが熱くなって損傷してしまう可能性があります。

TUNER OUT(チューナー・アウト):



リア・パネルに装備されているこの端子は、ラック・マウント・タイプのチューナーと接続すると、ラック内で接続が済んでしまうので便利です。

EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ):

M6 CARBINE(カービン)には、外部のエフェクト・プロセッサーを接続する為EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)端子が装備されています。この回路は、プリ・アンプとパワー・セクションの間に直列に接続されています。このループは、直列(並列の反対)に接続されますので、接続するプロセッサーのクオリティーが重要になります。“アンプの中”にプロセッサーが入る形になります。このループは、市販されているほとんどのプロセッサーの入出力インピーダンスに対応出来ますが、プロセッサーのクオリティーが、アンプ全体の音質に影響する事を、覚えておいて下さい。



バックパネル(続き):

EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)(続き):

ノート:プロセッサと本体を接続するシールド・ケーブルは、出来るだけ品質が良く、短いものにして下さい。1メートル位が理想的です。3メートルを超えると、高音域の減衰が始まり、中音域のパンチと明瞭度が落ちてきます。

EFFECT BYPASS(エフェクト・バイパス)スイッチは、エフェクト・ループの回路を“ハード・バイパス”しますので、スタジオで使用する時や、エフェクト・ループを使用しない場合は、この設定にする事を推奨します。聴き比べて明らかにわかるほどではありませんが、信号がこの回路を通らない事により、出力信号はピュアになります。

エフェクト・ループの使い方:

- 1) SEND(センド)ジャックとエフェクト・プロセッサの入力を接続する
- 2) RETURN(リターン)ジャックとエフェクト・プロセッサの出力を接続する
- 3) EFFECT BYPASS(エフェクト・バイパス)スイッチをON(オン)にする
- 4) EFFECT BYPASS(エフェクト・バイパス)スイッチをON(オン)とBYPASS(バイパス)で切り替えながら、どちらでも音量が同じになる様に、エフェクト・プロセッサの入出力レベルを調整します。エフェクト・プロセッサの入力でクリップする事が無い様に、M6 CARBINE(カービン)の出力レベルを調整する事も忘れないで下さい。

ノート: EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)は、プロフェッショナル品質のラック・マウント・プロセッサに最適化されています。ペダル式のエフェクターは、ベース・ギターとアンプの間に、直列に接続して使用するのが良いでしょう。接続するケーブルが増えると、当然の事ながら、音質は落ちていきます。出来れば、ベース・ギターをアンプに直接接続する事をお勧めします。接続する機器が増えれば、それだけノイズが増える事も覚悟して下さい。

GROUND LIFT(グラウンド・リフト)、DIRECT OUT(ダイレクト・アウト):

この端子には、エフェクト・ループを含むプリ・アンプ全体の信号が出力されます。出力される信号はバランスですので、ライブ会場のPAやレコーディング・コンソールに、直接接続する事が出来ます。この回路には2つの要素;(1)XLRのオス端子(2)グラウンド・リフト・スイッチがあります。



GROUND LIFT(グラウンド・リフト):このスイッチは、XLR端子と繋がっているシャーシ・グラウンドと、回路の接続を断ちます。コンソールに接続してハム・ノイズが発生しなければ、このスイッチはGROUND(グラウンド/スイッチを下)のままで大丈夫です。コンソールに接続してハム・ノイズが発生したら、このスイッチをLIFT(リフト/スイッチを上)にして、回路との接続を断って下さい。この方法は、信号からグラウンド・ループ・タイプのノイズを取り除くのに有効です。

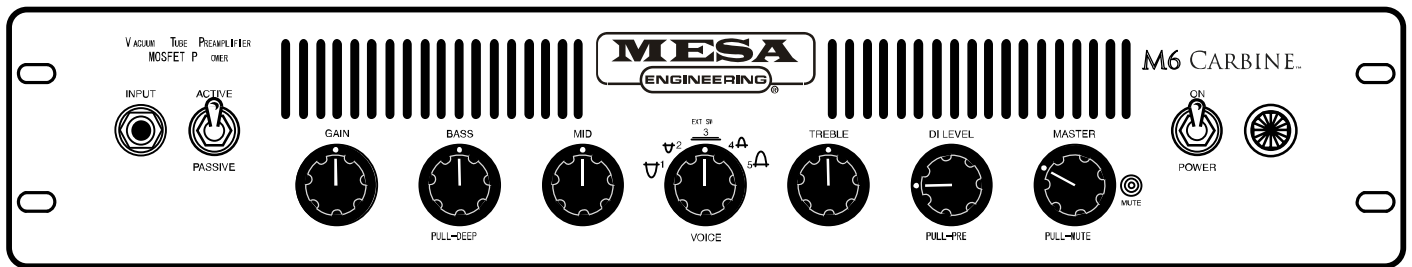
ハム・ノイズの無い信号を実現する為に、3-2グラウンド・アダプターを使用して電源ケーブルのグラウンドを浮かせる場合もあります。

ノート: 信号経路が複雑だと、様々な箇所でグラウンド・ループが起こる可能性があります。GROUND LIFT(グラウンド・リフト)スイッチは完全ではありませんので、グラウンド関連の問題は様々な方法で解決するしかありません。

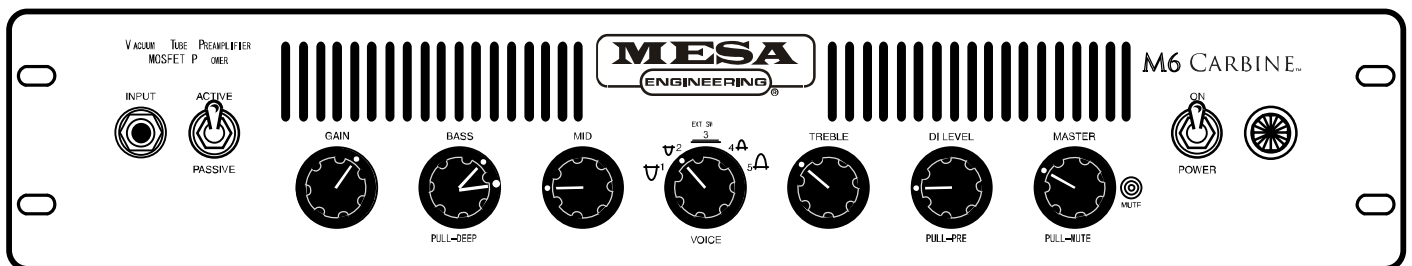
さあ、これでリア・パネルに関する説明は終了です。あとは実際にベースを接続して、M6 CARBINE(カービン)のサウンドを思う存分満喫して下さい。私達は、このアンプがあなたに素晴らしい音楽の発見とインスピレーションをもたらす事を願っています。

サンプル・セッティング

SAMPLE #1: STRAIGHT UP GREAT

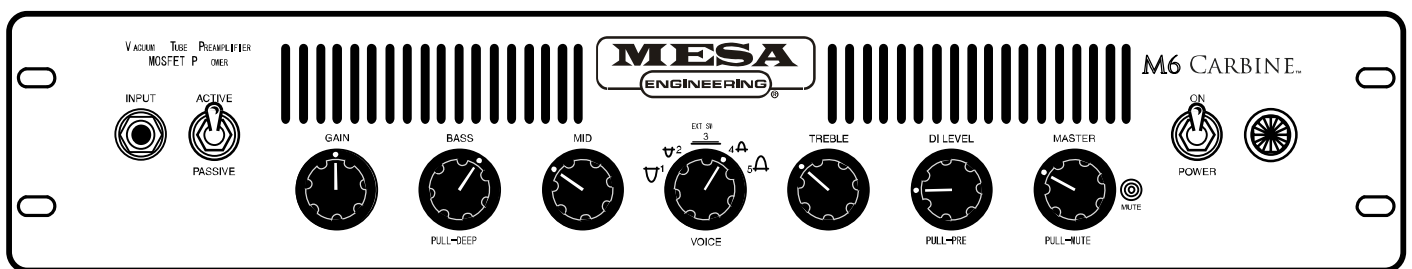


SAMPLE #2: BIG & WIDE

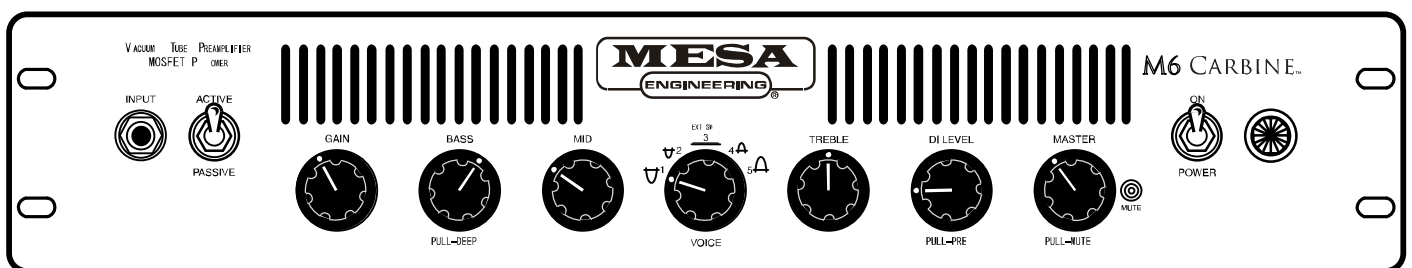


(Pull)

SAMPLE #3: TIGHT TRACKING

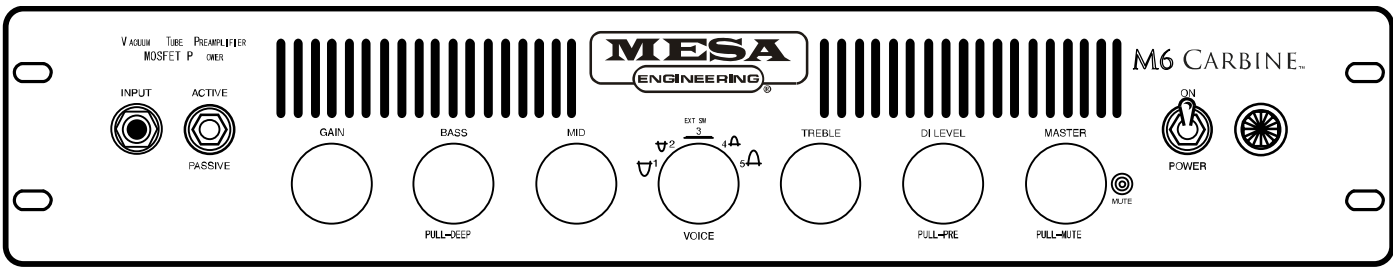
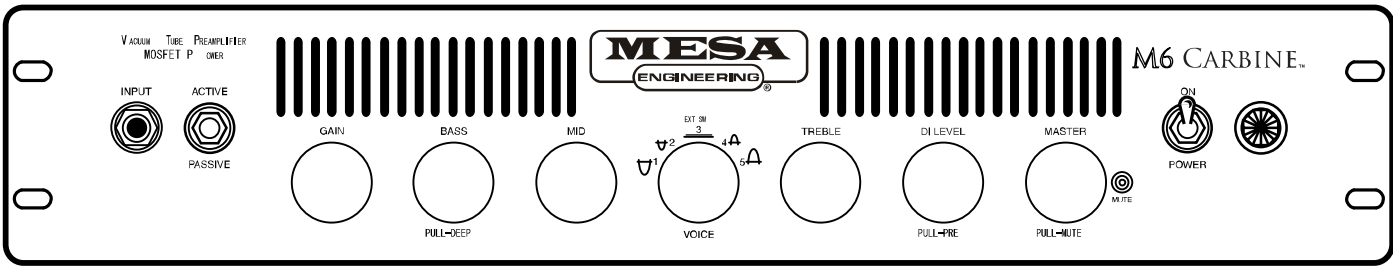
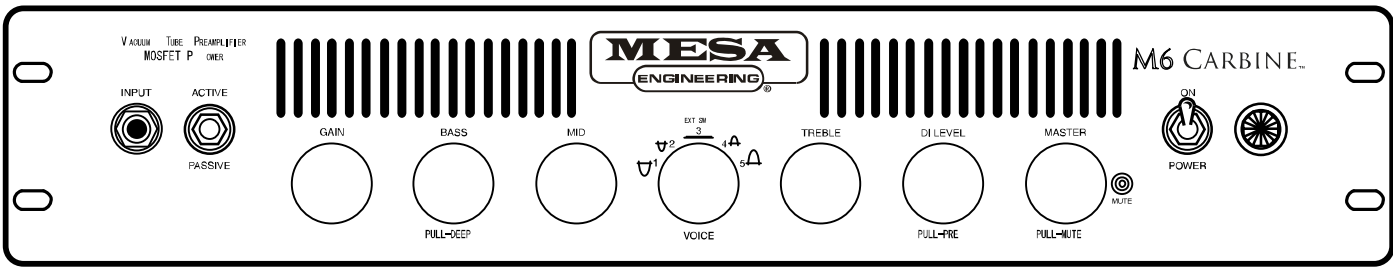
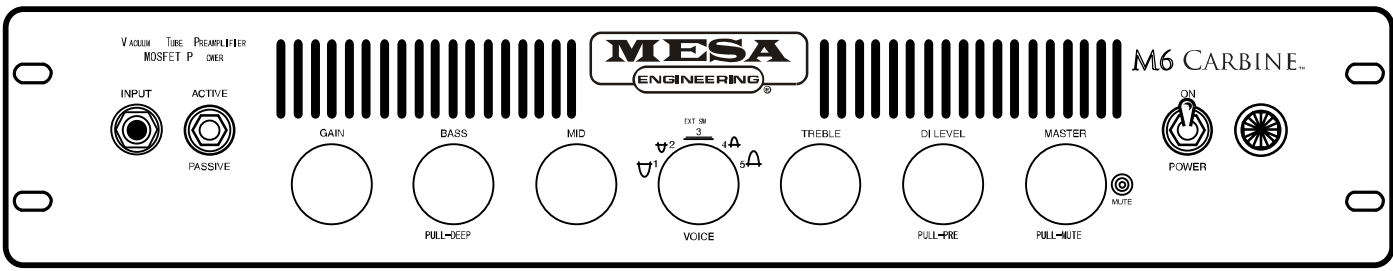


SAMPLE #4: SLAP HAPPY



(Pull)

ユーザ・セッティング・テンプレート

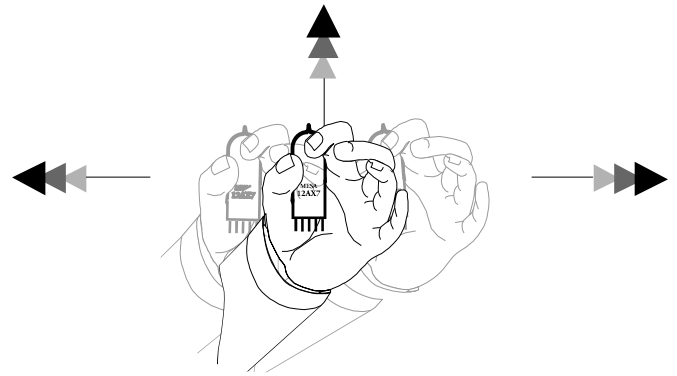


プリ・アンプの真空管の問題を診断する:

時折、僅かではありながらも、プリ・アンプの真空管ノイズを経験した事があるでしょう。しかし、これがすぐに故障に繋がるというわけではありませんので、安心して下さい。この不安を解消する1番の近道は、真空管を交換する事です。なるべくパフォーマンスを中断しない為にも、少なくともいくつかの予備の真空管を、常時携帯しておくの良いでしょう。このちょっとしたプリ・アンプの問題は、主に2つのカテゴリーに分けられます: ノイズとマイクロフォニック・プロブレムです。ノイズの種類は、パチパチ音であったり、ホワイト・ノイズ、ヒス・ノイズ、ハム・ノイズ等があります。マイクロフォニック・プロブレムは、ハイ・ゲインのモードで、ゲインやボリュームを大きくした時に、金属的な周波数の高い音でハウリングを起こします。マイクロフォニック・プロブレムは、楽器側のボリュームを絞ったり、楽器をアンプから外す事で、ハウリングが止まるか否かで、問題を切り分ける事が出来ます。ハウリングが、ピックアップのフィードバックによるものであれば、これでハウリングが止まるはずだからです。マイクロフォニック・プロブレムは、機械的な振動やショックによって引き起こされます: マイクロフォンを叩くというのが、マイクロフォニック・プロブレムの語源になっています。

1つのモードやチャンネルのみで、プリ・アンプの真空管の問題が起きるのならば、その問題を解決する最善の方法は、真空管の交換です。反対に、特定のモードやチャンネルに、トラブルが絞れない場合は、全てのモードやチャンネルに関わっている、パワー管をドライブする、真空管に問題があるのかもしれませんが、あるいは、可能性は低いのですが、ドライバー真空管に問題があるのかもしれませんが、- ですので、特定のモードやチャンネルに絞れない場合は、ドライバー真空管が交換してみるのが良いでしょう。ドライバー真空管の問題は、一般的に、パチパチ音やハム・ノイズが、アンプの出力から聞こえるという症状になって現れます。

ノート: 真空管をソケットから取り外すときは、図の様に、真空管の上の方をしっかりと握って、左右に揺らしながら、上に引き上げて下さい。

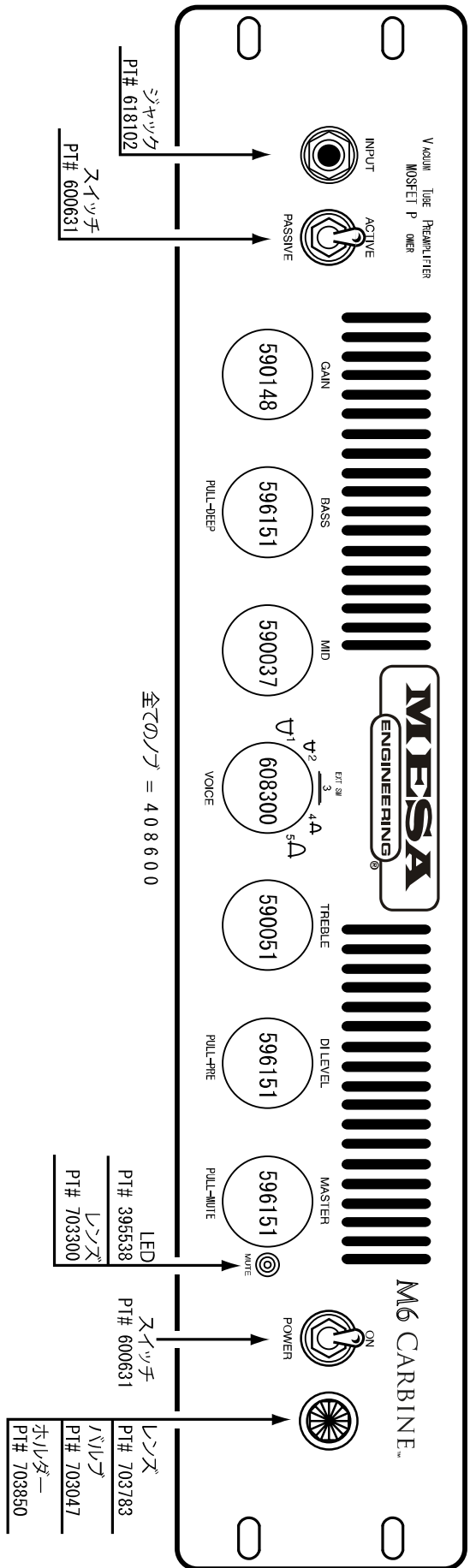


トラブルの原因が特定出来ない場合に、一番早くて確実な方法は、小さなプリ・アンプの真空管を同時に交換する事です。しかし、その後どこに問題があるかが解ったときの為に、外した真空管を保管しておいて下さい。入力ジャックに近い真空管のサウンドがノイズっぽく感じるかもしれませんが、それは、その真空管が一番始めの真空管であり、その後その出力が、他の真空管で増幅されていくからです。その理由から、“インプット・ソケット”(通常V1と表示されています)に装着する真空管は、最もノイズが少ない必要があります。プリ・アンプの後段-パワー管の直前の真空管にノイズがなければ、殆ど問題は発生しません。このアンプには、最も最適な真空管が装着されていますので、真空管を交換する場合は、全部一度に外すのではなく、1つ1つ外して取り付ける様にして下さい。問題の無い真空管に戻すときは、必ず元々装着してあったソケットに戻す様にして下さい。真空管を交換するときは、アンプの電源をSTANDBY(スタンバイ)にしてから行って下さい。そうする事で、スピーカーから大きなノイズになる事を防ぐ事が出来ます。そうしないと、たとえゆっくり真空管を取り外したとしても、ノイズが出る事があります。

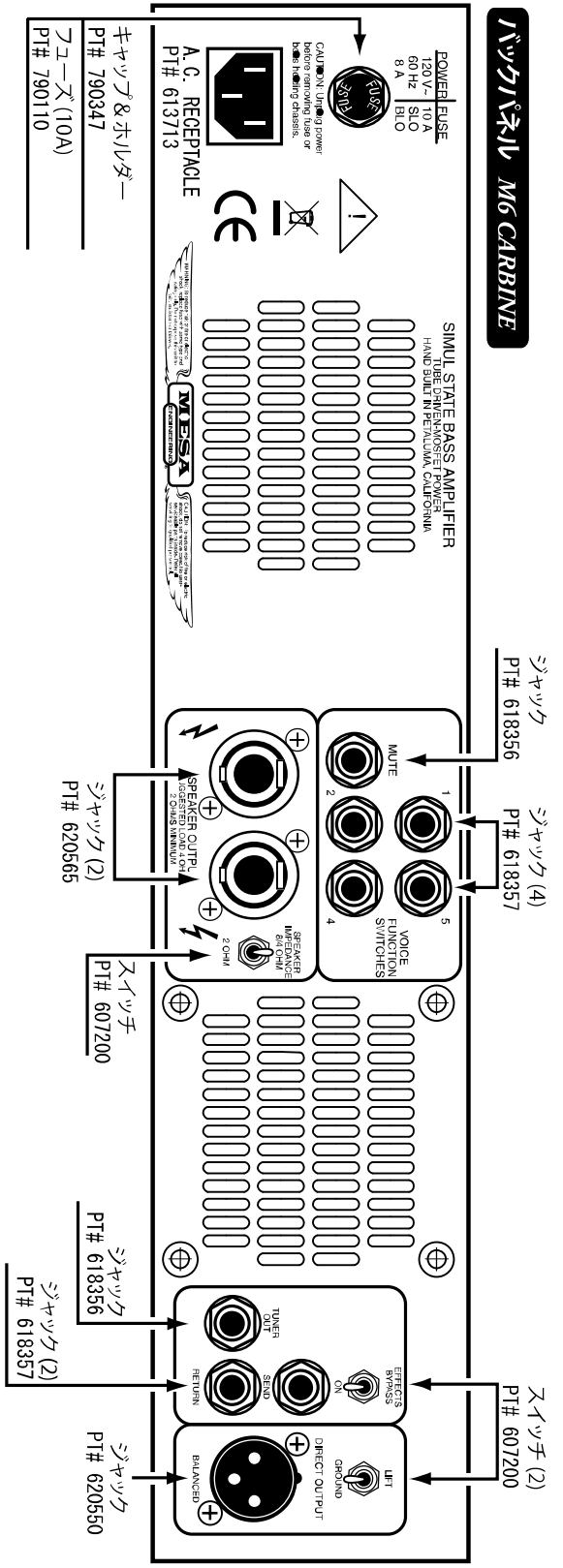
シャーシを運搬するときは、新聞紙を多く重ねて包んで下さい。包んだシャーシと、段ボール箱の間には、15センチ程の隙間“クラッシュ・スペース”を空けて下さい。エア・パッキンで包むのも良いですが、発泡スチロールは使用しないで下さい。- 発泡スチロールは、運搬中に擦れて、その粉がアンプ内部に入り込み、電子部品に損傷を与える可能性があります。プリ・アンプ管は、通常の使用で壊れる事は殆どありませんので、代替品と交換しても、結果が変わらない場合は、元に戻して下さい。稀な事ではありますが、トラブル・シューティングの手順に従って損傷していることがわかったら、適切に交換を行って下さい。

ノート: プリ・アンプ管を指で弾いた時に、金属っぽい音がするのは、異常ではありません。真空管からパチパチ音が出力されない限りは、通常通りに使用する事が出来ます。

フロントパネル M6 CARBINE



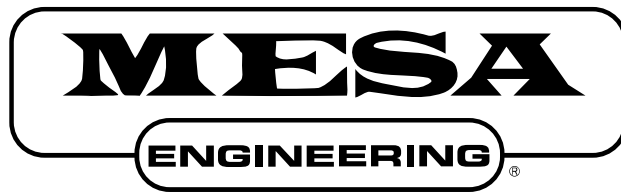
バックパネル M6 CARBINE



MESA/BOOGIE[®]

The Spirit of Art in Technology

この度はM6 Carbineをお買い求めいただき誠にありがとうございます。私達は、あなたのサウンドを実現する為にメサ製品を選んで下さった事に感謝すると同時に、あなたの日々の努力が報われる手助けが出来る事を願っています。



The Spirit of Art in Technology



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）